熱海市

地形概況

湯河原火山・多賀火山の急斜面が相模灘にのぞみ、錦ヶ浦など海食崖も発達する。侵食をすすめる熱海和田川や逢初川の谷底低地や網代や多賀西南方の山麓地は土石流的堆積物からなる。山腹の傾斜地にも市街地は拡大し、地形改変は進行した。

地質概況

基盤である湯ヶ島層群は凝灰角礫岩を主とし溶岩類も含む。南部の多賀火山は安山岩質溶岩・凝灰質岩石からなる円錐形成層火山であったが侵食された。北部の湯河原火山は安山岩・玄武岩質溶岩・火山砕屑物を主とし、角礫岩も分布する。

気象概況

平均気温は推定 15.5℃、年平均降水量が 2,020mm(田原本町)である。県内でも、1 月の最低平均気温が 3℃（推定)と温暖な地域であって、最高と最低月との較差が小さい。年降水量は比較的少なく、梅雨から夏にかけて主に降るが降水最大月と最小月との比は小さい。

災害事例 地震

- 1995 年 10 月 1 日（平成 7 年）伊豆半島東方沖群発地震 M=4.8 9 月 11 日から群発地震活動が始まり、10 月 1 日に M4.8、伊東・網代で震度 4 の地震を観測し、同 4 日に火山性微動が観測され県は災害対策本部を設置した。その後地震活動は低下し、同 18 日までにほぼ沈静化した。直接的な地震の被害はなかった。
- 1989 年 7 月 9 日（平成元年）伊豆半島東方沖群発地震 M=5.5
  6 月 30 日から活発な群発地震活動が始まり、7 月 9 に最大規模の地震が発生した。熱海市内では、道路損壊 7 箇所の被害があった。
- 1978 年 1 月 14 日（昭和 53 年）伊豆大島近海地震 M=7.0
  被害は住家一部破損 1 戸、文教施設 1 個所、道路 3 個所、砂防施設 1 個所程度で、南部の地方にくらべて軽微であった。
- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震 M=7.9
  県中・西部で大きな被害があったが、熱海・網代では震度 4 程度で被害もなかった。
- 1930 年 11 月 26 日（昭和 5 年）北伊豆地震 M=7.3
  丹那断層を生じた地震で、伊豆半島北部を中心に被害が大きかった。当市での被害は、熱海町で死者 3 人、負傷 3 人、住家全潰 18 戸、半潰 20 戸、荒廃林地 5 町歩、網代町で負傷 3 人、半潰 5 戸、多賀村で死者 1 人、全潰 2 戸、半潰 50 戸、荒廃林地 40 町歩などであった。
- 1923 年 9 月 1 日（大正 12 年）関東地震 M=7.9
  東京・横浜を潰滅させた大地震で、当市でも家屋全潰、熱海町で 155 戸(12.7%)、多賀村で 71 戸(16.1%)、網代村で 114 戸(20.8%)の被害があった。また死者は熱海町で 71 人(21)、多賀村で 3 人(1)、網代村で 4 人である。
  ( )内は行方不明者数。

- 1882 年 9 月 29 日（明治 15 年）
  熱海で落石、墓石の転倒があったが、局地的な地震であろう。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
  網代で屋根瓦おちること夥しと記録されている。震度は 4～5 であった。

災害事例 津波

- 1960 年 5 月 24 日（昭和 35 年）チリ地震津波
  南米チリ沖の地震による津波。網代で干満の差約 2.7m。
- 1923 年 9 月 1 日（大正 12 年）関東地震津波
  有名な関東地震による津波で当市付近は、非常に津波が高かった。熱海では 6～9m、上多賀で 5～6m、下多賀で 5～6.5m、和田木で 4～6m、網代で 3～5m であり、伊豆山と初島は 2m 程度と比較的低かった。また流失家屋は熱海で 162 戸、多賀で 10 戸であった。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震津波
  多賀で人家 20 戸流失したが、網代では人畜に死傷なしという。津波の高さは熱海で 6.2m、多賀 4～5m、網代 2m の程度である。
- 1782 年 8 月 23 日（天明 2 年）
  小田原・箱根の地震被害が大きかった。網代で津波被害があったとする記録もあるが、詳しくは不明。
- 1703 年 12 月 31 日（元禄 16 年）元禄地震津波
  熱海では人家 500 戸ばかりの所、わずか 10 戸ばかり残ったといわれ、津波の高さは 7m 位と推定されている。多賀でも海面より 10 丈も高い木の枝に海藻がかかったといい伝えられ,津波は 6m 位に達した。また網代では恵鏡院の檀信徒のみで 36 人も亡くなったと伝えられている。
- 1633 年 3 月 1 日（寛永 10 年）
  熱海では温泉が破壊され、耕地 25,000 平方メートルも荒廃した。津波の高さは 4～5m であろう。また網代では山崩れも含み耕地荒廃 2,900 平方メートル、宅地荒廃 2,500 平方メートルに及び、津波の高さは 3～4m である。

災害事例 台風

- 1958 年 9 月 26 日（昭和 33 年）狩野川(22 号)台風
  伊豆半島一帯で被害甚大で、死者・行方不明 1,000 人以上であった。網代では最大日雨量 215.1mm、最大 1 時間雨量 64.6mm に達し、熱海市の被害は、死者 4 人、負傷者 3 人、行方不明 1 人、全壊 15 戸、半壊 39 戸、流失 4 戸、床上浸水 63 戸、床下浸水 235 戸、田畑流埋 1ha などである。
- 1944 年 10 月 7 日（昭和 19 年）
  伊豆地方に大雨、5 日～7 日に湯ヶ島で 327mm の雨量があった。網代で死者 1 人、負傷者 2 人、全壊 54 戸、床上浸水 240 戸、床下浸水 1,058 戸、流失埋没田畑 444ha、

道路 10 個所、橋 27 個所の被害を生じた。

- 1920 年 9 月 30 日（大正 9 年）
  雨量は熱海で 261mm(29～30 日)に達し、伊豆地方特に田方郡に被害が大きかった。当地では死者 7 人。負傷 4 人行方不明 3 人、全壊 46 戸、半壊 52 戸、流失 57 戸、床上浸水 146 戸、床下浸水 217 戸、冠水田畑 34ha、山（崖）崩れ 351 個所の被害が出ている。
- 1824 年 8 月 17 日（文政 7 年）
  当日より雨になり翌日も雨が激しかった。家 17 戸、小屋 11 個所、河原湯全壊の被害が生じた。
- 1751 年 7 月 19 日（宝歴元年）未の荒水
  大雨洪水、村落に浸水した。山崩れ、人畜死傷の被害を生じた。
- 1688 年 8 月 17 日（元禄元年）辰の満水
  17 年前の大洪水に次ぐ洪水、田畑大荒れという。
- 1671 年 9 月 29 日（寛文 11 年）亥の満水
  連日の雨で、特に当日は甚だしかった。そのため大洪水が起こり、人家・田畑を押し流し、人畜の死傷多数を生じた。多賀では山津波のようになったといわれる。

災害事例 豪雨

- 1961 年 6 月 28 日（昭和 36 年）
  網代で 28 日 324mm の集中豪雨が記録されている。

災害事例 冷害

- 1825（文政 8 年）
  文政 8 年の夏は気温が低く、大凶作となり、熱海でも被害が大きかった。
- 1783（天明 3 年）天明大飢饉
  天明 3 年 7 月の浅間山の大噴火の火山灰は大気を覆い、夏なお寒く冷たい雨が降りつづき、夏作は皆無、稲もことごとく実らず、未曽有の大凶作となった。熱海村でも翌 4 年には大飢饉に見舞われた。